

## 第118回 病態生化学セミナー

日時：平成29年10月26日（木曜日）午後6時00分～

場所：医学部講義棟1階 国際交流ラウンジ

演題：細胞はどのようにエピゲノムを維持するのか？

How cells maintain epigenome?

演者：村上 洋太 先生

北海道大学 理学研究院 教授

DNAの折りたたみ構造であるクロマチン構造は細胞が持つゲノム遺伝子の発現パターンを制御する。クロマチン構造はDNAやDNAを巻きつけるヒストンたんぱく質の化学修飾により規定され、これらの修飾の総体をエピゲノムと呼ぶ。エピゲノムは発生段階や環境応答によりダイナミックに変化する一方で、一度決まったパターンを長期に安定に維持される必要もある。これらの制御は化学修飾をおこなう「writer」と修飾を取り除く「eraser」の協調的制御が必要であり、その破綻は細胞がん化を含む様々な問題を引き起こす。しかし、その協調的制御機構については不明であった。我々は真核細胞で保存されたクロマチン構造制御をもつ分裂酵母をモデル系として、サイレントなクロマチン構造であるヘテロクロマチンの維持機構について解析をおこない、その協調的制御機構の一端を明らかにした。その制御機構の普遍性も含め議論したい。

【村上 洋太】

連絡先：

浦野 健

島根大学 医学部 病態生化学

TEL 0853-20-2126

E-mail turano@med.shimane-u.ac.jp

博士課程選択必修科目：基礎医科学(3)、

博士課程選択科目：細胞生物学 I (D6)、老化 II (D20)、発生生物学 I (D15)、  
発癌 I (D22)、腫瘍生物学 I (D24)、II (D25)、III (D26)、臨床腫瘍学 I (D28)、  
II (D29)、III (D30)、IV (D31)、V (D32)、VI (D33)、地域がん治療学(D37-1)、  
口腔腫瘍学(D37-2)、薬物動態学 I (D70)、腫瘍免疫学 I (D79)、  
理工医学のための生物材料学(D103)

医科学専攻(修士課程)選択科目：

腫瘍の発生・増殖とその制御 (23)、理工医学のための生物材料学の基礎 (M33)  
を履修している学生は、できる限りこのセミナーに出席してください。